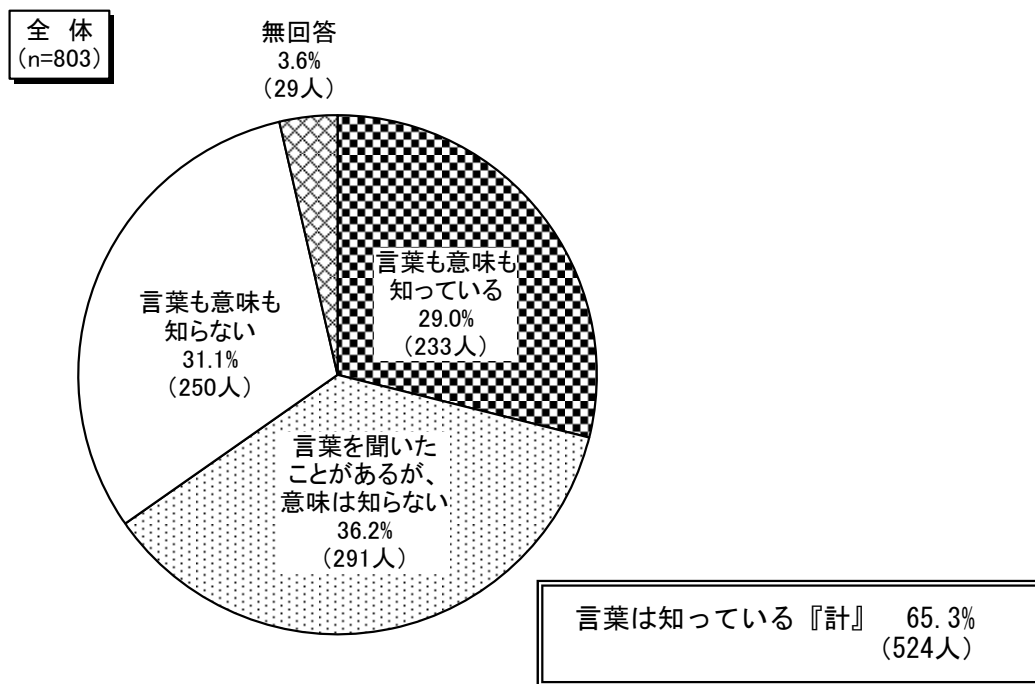


5. 生物多様性について

(1) 「生物多様性」という言葉の認知状況

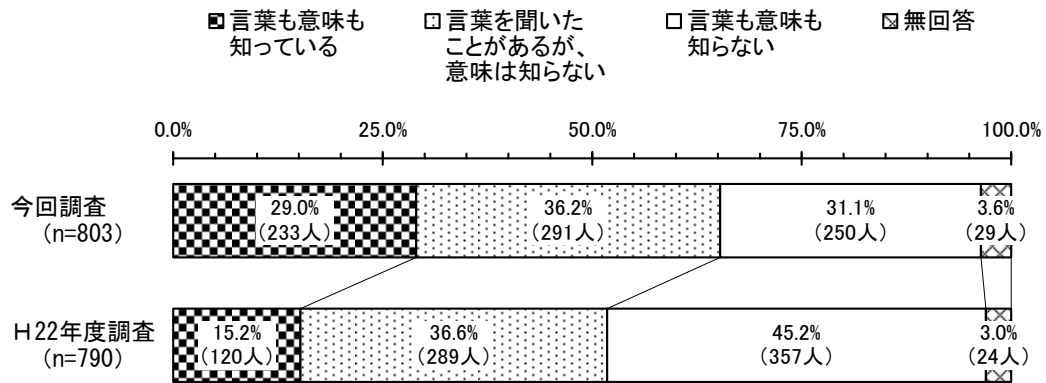
問 14 あなたは、「生物多様性」という言葉について知っていますか。
あてはまるもの1つに○をつけてください。



「生物多様性」という「言葉も意味も知っている」人は 29.0%で、3割弱となっている。これに「言葉を聞いたことがあるが、意味は知らない」(36.2%)を合わせた『言葉は知っている』計の割合は 65.3%となっている。

一方、「言葉も意味も知らない」は 31.1%となっている。

【参考 平成 22 年度調査との比較】



言葉は知っている『計』	
今回調査	65.3% (524人)
平成22年度調査	51.8% (409人)

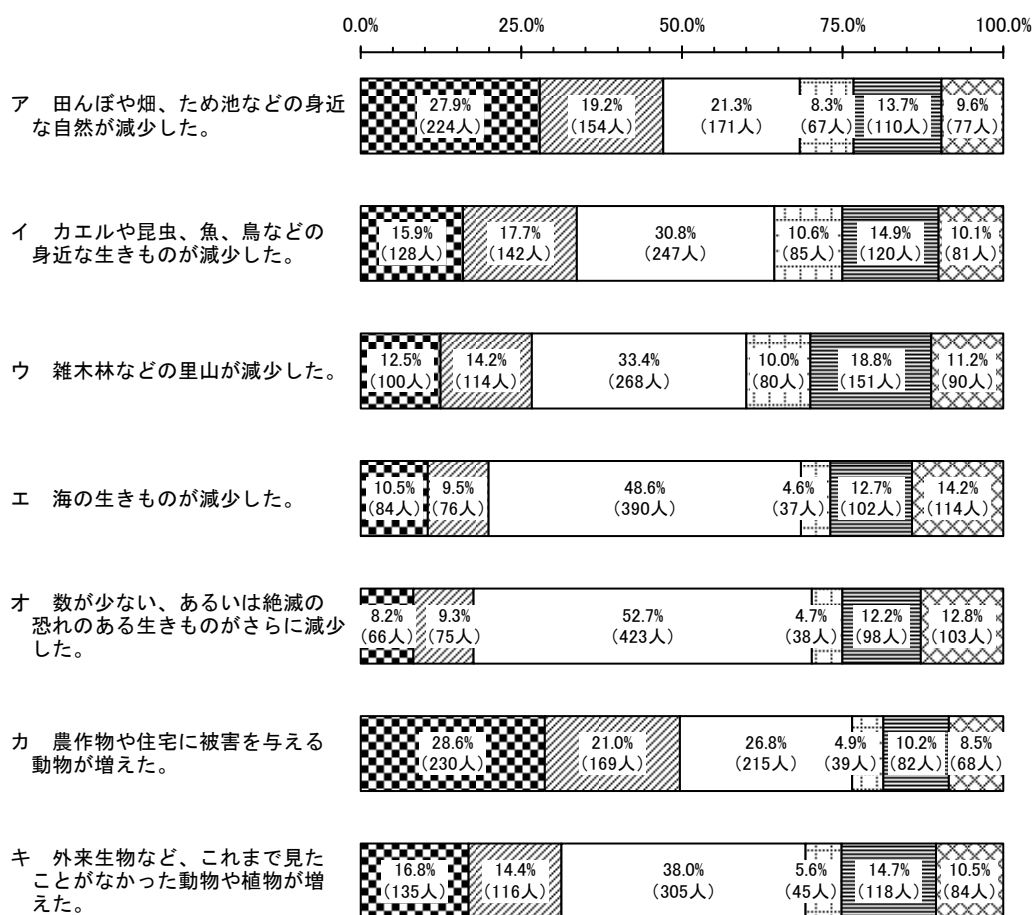
今回調査は平成 22 年度調査に比べて、『言葉は知っている』計の割合が、1割以上上昇している。

(2) 震災前後での自然環境の変化

問 15 震災前と比較して、あなたの周りの身近な自然環境はどのように変化しましたか。
それぞれ1～5の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体 (n=803)

あてはまる
 どちらとも言えない・わからない
 あてはまらない
 どちらかと言えばあてはまる
 どちらかと言えばあてはまらない
 無回答



震災前と比較した身近な自然環境の変化は、〈農作物や住宅に被害を与える動物が増えた。〉に「あてはまる」(28.6%)と回答した人が最も多く、3割弱となっている。次いで、あまり差がなく〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(27.9%)が続いている。

「あてはまる」と「どちらかと言えばあてはまる」を合わせた『あてはまる』計の割合をみると、〈農作物や住宅に被害を与える動物が増えた。〉(49.7%)が最も多く、約5割となっている。以下、〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(47.1%)が5割弱、〈カエルや昆虫、魚、鳥などの身近な生きものが減少した。〉(33.6%)と〈外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた。〉(31.3%)が3割台、〈雑木林などの里山が減少した。〉(26.7%)が2割台となっている。

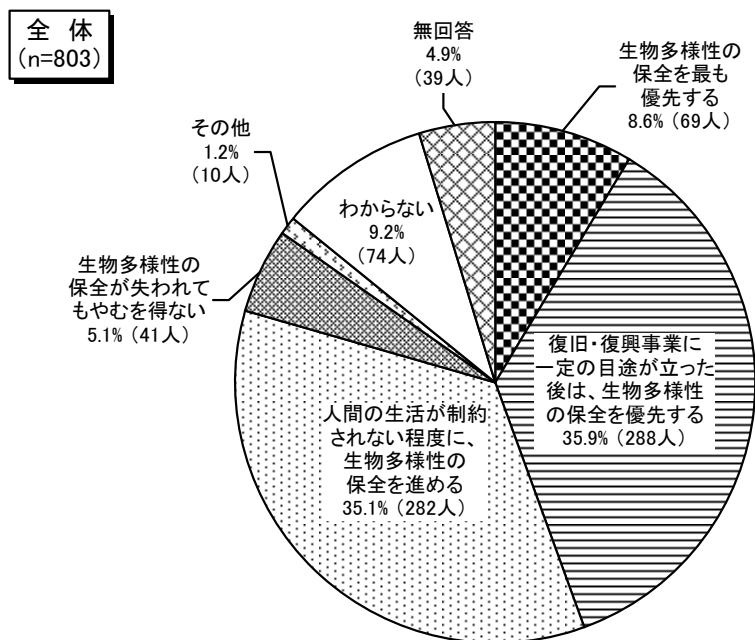
一方、「あてはまらない」と「どちらかと言えばあてはまらない」を合わせた『あてはまらない』計の割合は、〈雑木林などの里山が減少した。〉(28.8%)が最も多く、3割弱となっている。以下、〈カエルや昆虫、魚、鳥などの身近な生きものが減少した。〉(25.5%)、〈田んぼや畑、ため池など身近な自然が減少した。〉(22.0%)、〈外来生物など、これまで見たことがなかった動物や植物が増えた。〉(20.3%)が2割台となっている。

また、〈数少ない、あるいは絶滅の恐れのある生きものがさらに減少した。〉と〈海の生きものが減少した。〉は、「どちらとも言えない・わからない」の割合が多く、それぞれ52.7%、48.6%で5割前後となっている。

(3) 生物多様性の保全と復旧・復興の優先度

問 16 生物多様性を保全していくことは大切ですが、一方で東日本大震災からの復旧・復興に取り組む必要もあります。あなたはこのことについてどのようにお考えでしょうか。

あてはまるもの1つに○をつけてください。



生物多様性を保全していくことと東日本大震災からの復旧・復興の優先度は、「まずは復旧・復興事業を優先するが、一定の目途が立った後は、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を優先する」(35.9%)と考える人が最も多くなっている。次いで、差がなく「復旧・復興事業に関わらず、人間の生活が制約されない程度に、生物多様性の保全を進める」(35.1%)となっている。以下、「復旧・復興事業に関わらず、人間の生活にある程度制約があっても、生物多様性の保全を最も優先する」(8.6%)、「人間の生活の豊かさや便利さを確保するためには、生物多様性の保全が失われてもやむを得ない」(5.1%)と続いている。

また、「わからない」が9.2%となっている。

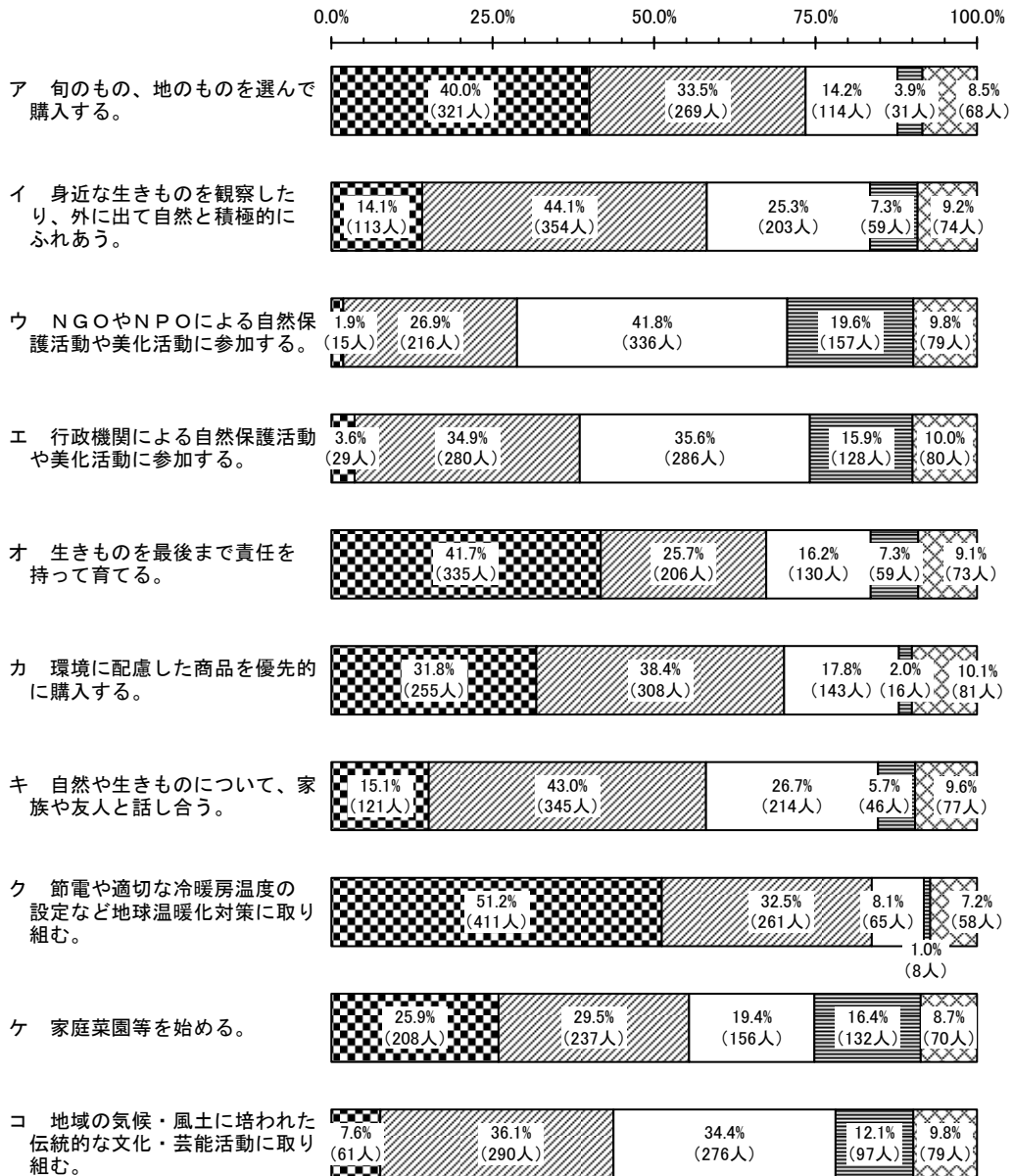
(4) 今後実践したいライフスタイル

問17 あなたは、生物多様性に配慮したライフスタイルとして、これからどのようなことを行いたいと思いますか。

それぞれ1～4の中であてはまるもの1つに○をつけてください。

全体
(n=803)

- ☐ 積極的に取り組みたい
- ☑ 機会があれば取り組みたい
- どちらとも言えない・わからない
- 取り組みたいとは思わない
- ☒ 無回答



生物多様性に配慮したライフスタイルとして「積極的に取り組みたい」ことは、〈節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む。〉(51.2%)と回答した人が最も多く、5割強となっている。次いで、〈生きものを最後まで責任を持って育てる。〉(41.7%)と〈旬のもの、地のものを選んで購入する。〉(40.0%)が4割台で続いている。

「積極的に取り組みたい」と「機会があれば取り組みたい」を合わせた『取り組みたい』計の割合をみると、〈節電や適切な冷暖房温度の設定など地球温暖化対策に取り組む。〉(83.7%)が最も多く、8割強となっている。以下、〈旬のもの、地のものを選んで購入する。〉(73.5%)と〈環境に配慮した商品を優先的に購入する。〉(70.1%)が7割台、〈生きものを最後まで責任を持って育てる。〉(67.4%)が6割台、〈身近な生きものを観察したり、外に出て自然と積極的にふれあう。〉(58.2%)、〈自然や生きものについて、家族や友人と話し合う。〉(58.1%)、〈家庭菜園等を始める。〉(55.4%)が5割台となっている。

一方、「取り組みたいとは思わない」の割合は、〈NGOやNPOによる自然保護活動や美化活動に参加する。〉(19.6%)が最も多く、約2割となっている。次いで、〈家庭菜園等を始める。〉(16.4%)が続いている。

また、〈NGOやNPOによる自然保護活動や美化活動に参加する。〉、〈行政機関による自然保護活動や美化活動に参加する。〉、〈地域の気候・風土に培われた伝統的な文化・芸能活動に取り組む。〉は、「どちらとも言えない・わからない」の割合が高く、それぞれ41.8%、35.6%、34.4%となっている。